

# 「さあ、みんなで、考えよう」

## 「しらすぎ識字学級」

せんげつごう つげ ちゆう ねんせい  
先月号で「柘植中スタンダード」のクイズを出題し、柘植中学校3年生の  
や はた ゆう か さくぶん しょうかい すうにん かつ や はた  
八幡優花さんの作文を紹介しました。そのあと、数人の方から、「八幡さんの  
さくぶん よ わたし じぶん かんが  
作文読みました。私たちも自分ごととして考えていきたい」という声をかけ  
ていただきました。その八幡さんの作文に、

とも てんのう じちゆうがっこう や かんがつきゆう こうりゆう じ ぜん がくしゆう がっこう  
友だちは、天王寺中学校夜間学級との交流の事前学習で「学校」とい  
えい が み と き いっしょうけんめい も じ れんしゆう すがた み  
う映画を見た時も、一生懸命文字の練習をする「オモニ」の姿を見て、  
「これって、うちの地域の識字学級と似てるよなあ。」とつぶやいて  
わたし まいにち せいかつ なか ろう か た ほなし えい が かんそう  
いました。私は毎日の生活の中で、ふとした廊下の立ち話や映画の感想  
じんけん がくしゆう はじ おも  
からでも人権学習が始まるんだなと思いました。

と書かれています。今回の通信は、「識字学級」について  
「さあ、みんなで、考えよう！」

### 3月の講演会や研修会の案内

が つ にち もく じんけんこうえんかい み え けんじんけん  
○3月16日(木) 人権講演会 (14:30～) 三重県人権センター

「ヘイトスピーチに打ち勝つには ～カウンターから裁判まで～」 (李信恵さん)

## 「しらすぎ識字学級について」

### 第4回いがまち人権センター解放講座(2017. 2. 17)

ほんねん ど かいほうこうぎ かい しきじ おこな さいご だい かいかいほうこうぎ  
本年度の解放講座は、4回にわたり「識字」をテーマに行われました。最後の第4回解放講座は  
いがまちで開校した「しらすぎ識字学級」についてでした。

「字が読めんで新聞はいらん。大きな病院へかかりとうても行けへんわ。いろんなこと書かなん  
しな。行きとうても行かれへん。ほんま情けないし、はがゆいわ。」等の声に、非識字というのは、人間  
らしい生活 せいかつ いとな けんり うば じゆうだい じんけんしんがい おも じよせいぶ ちゆうしん しきじ  
を営む権利を奪ってしまう重大な人権侵害ではないかと思っただ女性部を中心に、識字  
がつきゆうかいせつ とく ねん がつ にち しきじ がつきゆう  
学級開設にむけた取り組みがはじまりました。そして1990年7月18日に「しらすぎ識字学級」  
かがいこう びょういん しい  
が開校しました。午後7時30分から毎週木曜日にいがまち人権センターでおこな  
きんねん しきじ がつきゆうせい こうれいか よる がつきゆう で  
ています。近年は識字学級生の高齢化により、夜の学級へは出にくくなっていることから、200  
ねん ど がつ よる しきじ がつきゆう くわ あら ひる ぶ かいせつ げんざい がつきゆうせい めい ざいせき  
9年度4月より、夜の識字学級に加えて新たに昼の部を開設しました。現在、学級生は22名が在籍  
しています。(2月17日の解放講座の配布資料より抜粋)

# 今までに発行された文集「しらさぎ」より

## わたしと識字 ～1992年発行の第1号文集「しらさぎ」より～

わたしが識字とならおうと思った事は、新聞が読めないのと医者に行っても文字がかかずに困ったからです。孫が学校に入ったら字をおしえてやりたいと思うからです。識字をしてよかったです。何も知らない私に手を取るように教えて下さいましたので、初めて年賀状を出せるようになりました。今までは、病院へ行くのにもうらの人について行ってもらったが、今では一人で行く事ができます。家でも、お祝いのふくろを嫁に書いてもらっていたが、いっぺん自分で書いてみるわと書いて見たのを見て、お母さん上手やなと言ってほめてくれました。これから識字でしていきたい事は、友達に手紙を出せるようになります。

## 今は自分で書いています ～1992年発行の第1号文集「しらさぎ」より～

私は小学校の4年生のころ、父が病気のため母が働かなければならないので妹や弟のめんどうを見ていました。それで私は学校も休みがらで勉強があまりできませんでした。字が読めるけど書くことができないためずいぶんくろうしました。今、会社へ行って毎日の仕事のないうえを書かなくてはならないのです。むずかしい字が書けないのでとなりの人にあんなついでに私の書いといてと書いてもらっていました。今思うとはずかしいです。(中略)  
(識字学級へ)行ってみるとおばあさんばかり5人ほどでわかい人はいませんでした。でも字を書けるようになります、休まんとつづけようと思いました。しき字学級で先生に字をおしえてもらってからえんぴつをもつのもこわくなくなりました。ほんとうによかったです。今は自分でかいています。

## 1992年発行の第1号文集「しらさぎ」の巻頭のことば

「識字の場は文字を奪い返す場だといわれていますが、人間の生き方を奪い返す場であり、文字を学ぶよりも、人と人のつながり、人間と人間との関係性を奪い返す場であろうという意味で、両方からの解放という大きな意味をもっている」といわれます。文字を奪い返そうと、熱い願いをにぎりしめ、毎週木曜日夜七時半、文化センターの識字学級へ、大勢の人たちが集まってきました。人に言っても仕方ない、人に知られたら恥ずかしいと、心の奥にしまい続けたことを、ゆさぶり、照らし、掘り出すために、一字一字に思いを込めて刻みます。「こんなはがゆいこと」「あんな苦しいこと」「ほんに嬉しかったこと」をみんなで綴って、開校二年目、ここに文集「しらさぎ」の創刊号ができました。長い間、しまい込まれた魂は、それを綴る人だけでなく、それに触れる多くの人にも反差別の生き方を教えてくれます。

## 2007年識字学級開校15年記念の文集「しらさぎ」巻頭に掲載された

### 当時のいがまち人権センター所長さんの言葉

識字は、単に文字や数字の基礎的な読み書きを学ぶだけではありません。「新聞がよめない」「汽車に乗ることや、病院に一人で行けない」「手紙を書くことができない」など、部落差別により、文字やことばを奪われ、さらに日常生活や人間関係さえも奪われてきました。しらさぎ識字学級の学級生のみなさんは、この識字学級での取り組みを通して、自分の力で文字を奪い返し、真の人間を取り戻す営みをつくられてきました。この文集では、子どもを育て、家族を養った苦悩の人生が綴られています。ある学級生さんは、「私から文字を奪ったのは先生だ!」と綴られています。しかし、識字を通し、学ぶことによって「字が書けるのも先生のおかげです」と感謝の言葉が変わっていったのです。このように識字学級は、お互いを理解しあい、交流を深めるといふプロセスを経て、人と人との信頼関係を築き、導いています。まさに、人間解放であると思います。

